GIGAスクール構想は次のステップへ。目指すのは「誰一人取り残さない学び」

GIGAスクール構想の進捗を、教育データ利活用ロードマップで再確認してみましょう。

教育データ利活用ロードマップ (2022年1月7日) デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省 (https://www.digital.go.ip/news/a5F_DVWd/)を参考に編集

オンライン化を進めて校務の負担を軽減 短期〈~2022年頃〉

- ●教育現場を対象にした調査や手続が原則オンライン化
- ■事務等の原則デジタル化など、校務のデジタル化を進め、学校の負担 を軽減
- ●インフラ面での阻害要因(例:ネットワーク環境)の解消
- ●教育データの基本項目(例:法令や調査で全国で共通的に取得されて いる主体情報)が標準化

●調査・手続のオンライン化の進捗状況・校務のデジタル化の進捗状況

論点•課題

情報が紙で処理されており、調査 や事務の負担が重い

調査等のオンライン化で校務負担 が軽減

目指す姿



●インフラ面での指標(端末、ネットワークetc.)



新しい指導法や学び のスタイルを創出 中期〈~2 025年頃〉

- ためのログ収集が可能

- ●学習者が端末を日常的に使う ようになり、教育データ利活用の
- ●内容・活動情報が一定粒度で標準 化され、学校・自治体間でのデータ
- ●学校・家庭・民間教育間でのそれぞれの学習状況を踏まえた支援 が一部実現

論点•課題

学校や自治体間のデータ同士の結 びつきなし

データの標準化によりEBPMの推 進や新たな教授法・学習法の創出

校務情報

情報

目指す姿

教材情報

校務情報

教育外の

学校履歴

教育外の 教材情報

誰一人取り残さない教育のデジタル化を定着 長期〈~2030年頃〉

- ●学習者がPDSを活用して生涯にわたり自らのデータを蓄積・活用 できるように
- ●内容・活動情報のさらに深い粒度での標準化が実現
- ●支援を必要とする子どもへのプッシュ型の支援が実現
- ●真に「個別最適な学び」と「協働的な学び」が実現

論点•課題

「学校で」「教員が」「同時に」「同一学年の 児童生徒に」「同じ速度で」「同じ内容を」 教えるという、学習指導の基本的な枠 組みでは十分に対応できない可能性



目指す姿

誰もが、いつでもどこからでも、 誰とでも、自分らしく学べる







実現のための KPIの考え方

※多角的な側面から 測定することが重要

- ●ICTを活用した個別最適な学び ・協働的な学びの実現状況
- ●情報活用能力の向上(2022年 情報活用能力調査)
- ●データ利活用状況
- ●教職員のICT活用指導能力の向 上
- ●教職員の業務削減(2022年教員勤務実態調査)

- ●学力の向上(全国学力・学習状況調査等)
- ■いわゆる非認知能力とされているものの向上(全国学力・学習状況調査等)
- ●教職員の業務削減(2022年教員勤務実態調査)



●日常的な端末活用

Elevate potential with Windows 11 Pro devices